

2022年4月19日[火]—24日[日]

開館時間:10:00-18:00(金曜日は20:00まで、最終日は16:00まで)
休館日:会期中無休/入場無料
会場:愛知県美術館8階ギャラリー H・I室
主催:名古屋芸術大学

名古屋芸術大学は、中部地域唯一の私立総合芸術大学として、開学以来、教育研究活動を展開し、数多くの芸術家を育成するとともに、多様な芸術活動や社会実践等を通じて、芸術文化の展開に寄与してまいりました。美術・デザイン分野においては、令和元年(2019年)より「名古屋芸術大学展」をスタートさせ、今回は第4回展を迎えることとなります。今回の展示では、さる2月に本学キャンパス(北名古屋市)で開催された卒業・修了制作展において優秀な成績を修めた作品を一堂に集め展覧致します。

また初めての試みとして、近年国内外で目覚ましい活躍を続けるキュレーターの服部浩之氏を特別審査員としてお招きし、作品審査をお願いすることになりました。会期中に優秀作品の中から、グランプリと準グランプリを選出します。

社会の大きな変化が進行する中、芸術のあり方もまた変革されることを実感していただき、今後の社会を担っていくアート、デザイン分野の若き開拓者たちの成果を心ゆくまでご覧ください。



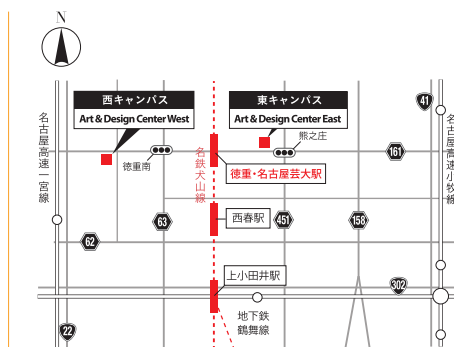
Art & Design Center West | Shopでは展示開催期間に併せて本学にゆかりのある作家たちによるアート作品・アクセサリーの販売を行なっています

名称: Art & Design Center West | Shop
場所: Art & Design Center West 館内
営業時間: 12:15-17:00

編集後記

これを書いている今日、雪が積もりました。事務室から見える交流テラスで雪合戦をしている学生を横目に、なかなか効かないエアコンの下凍えております。雪が降った時のワクワク感を取り戻したいのに、車の窓ガラスが凍っているから朝早く出なきゃとか、道混んでないかなとか、いまいち上らないテンションに年を感じました。

市原 萌絵(アート&デザインセンター-East)



最寄りの交通機関をご利用の場合
名鉄大山線(地下鉄舞臺線乗り入れ)徳重-名古屋芸術大学下車西キャンパスは 西へ約1,000m徒歩13分
東キャンパスは 東へ約600m徒歩8分

Campus Art&Design Center West

Open 12:15-18:00(最終日は17:00まで)日曜休館 入場無料 どなたでもご覧いただけます。
スケジュール、タイトルは変更になる場合がありますので、ご確認ください。大学行事のため、日曜以外も休館する場合があります。

- 4/ 1 画 → 4/13 画 デザイン領域レヴュー選抜展
- 5/ 6 画 → 5/11 画 絵画をみる-茂登山東一郎のコンポジションとマチエール(仮)/かくれんぼ
- 5/13 画 → 5/18 画 アークリ博覧会
- 5/20 画 → 5/25 画 杉山仁彦展
- 6/ 2 画 → 6/14 画 儀間朝龍 企画展
- 6/17 画 → 6/22 画 白澤真生ポスター展
- 6/24 画 → 6/29 画 スギナ日本画展/Freggment
- 7/ 1 画 → 7/ 6 画 プレソソ展/大学院メディアコミュニケーション
- 7/ 8 画 → 7/13 画 スペースデザインコース展/2022年度前期交換留学生展
- 7/15 画 → 7/20 画 【工芸リレー】CONNEX2022 陶・ガラス教育機関講評交流展
- 7/22 画 → 7/27 画 【工芸リレー】素材展 テキスタイルデザインコース前期制作展
- 7/29 画 → 8/ 3 画 【工芸リレー】素材展 メタル&ジュエリーデザインコース前期制作展

Campus Art&Design Center East

Open 11:00-18:00(4/28-5/5は閉館)日曜休館 入場無料 どなたでもご覧いただけます。
スケジュール、タイトルは変更になる場合がありますので、ご確認ください。大学行事のため、日曜以外も休館する場合があります。

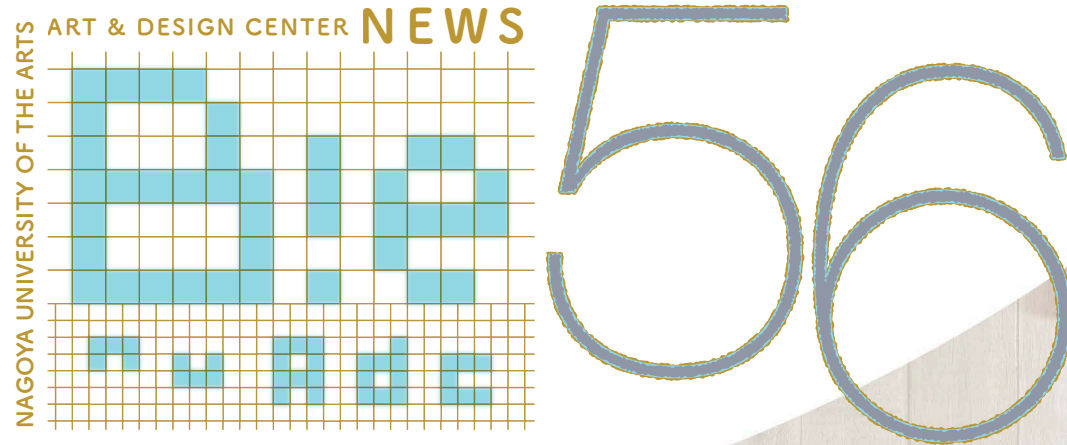
- 4/ 8 画 → 4/20 画 芸術教養領域「プロジェクト2」成果展/北名古屋市回想法センター20周年作品展
- 4/22 画 → 5/11 画 芸術教養領域 第4回レビュー選抜展
- 5/13 画 → 5/18 画 アラムナイコレクション展1
- 5/20 画 → 6/ 1 画 リベカル展 芸教x「私」-好きのその先へ-
- 6/ 3 画 → 6/15 画 制作展『』ができるまで(仮)
- 6/17 画 → 6/22 画 VD大学院1年生(仮)
- 6/24 画 → 7/ 6 画 まぜこみわかめ(仮)
- 7/ 8 画 → 7/13 画 アラムナイコレクション展2
- 7/15 画 → 7/20 画 スペースデザインコース展
- 7/22 画 → 7/27 画 名芸大生の住む「この町じまん新聞展」
- 7/29 画 → 8/ 3 画 第5回芸術教養領域レビュー展

名古屋芸術大学 Art & Design Center

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 TEL [0568]24-2897 FAX [0568]48-0173

Ble Vol.56
発行日 2022年2月17日

編集・発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 E-mail adc@nua.ac.jp URL http://www.nua.ac.jp
2018 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of the Arts デザイン/印刷 サンメッセ株式会社



アーティストと職人、地元の人と旅人。 そして現代アートと古い家屋が 交差する場所を目指して

岐阜県郡上市に2020年6月にオープンした「Art & Hotel 木ノ離」は、かつての花街の面影を残す築93年の町家を改修したアートホテルです。古い建物とアートが融合するこの施設について、日本の伝統建築を残すための活動をしている、オーナーであり建築士のスタジオ伝伝の藤沢百合さんと、岐阜県美濃加茂市でアートイベント「きそがわ日和」を開催し、「木ノ離」でのアートディレクションを行なっているStudio Riverbedの小川友美さんと尾藤由紀子さんにお話を伺いました。

なぜ郡上八幡という場所を選ばれたのですか?

藤沢 | 自分は岡山県出身で縁もゆかりもなかったのですが、十数年前に訪れたとき街並みに一目惚れしたんです。その後仕事で独立した直後に、郡上八幡に空き家が増え、町家が壊されて駐車場化している状況を知りました。居ても立ってもいられず、郡上八幡の空家対策活動に参加し、任期終了後も郡上八幡にサテライトスタジオをオープンして関わり続けています。地域の人の繋がりが密で、道で会う人会う人が知り合いだったり、みんなで協力して事に当たったり、お互い様と助け合う、そんな空気がとても好きです。

アートとホテルが関わる施設にした理由は何かあるのでしょうか?

藤沢 | まず、自分で会社を起した時に伝統的な日本家屋を残していきたいという思いがありました。しかし、人口減少の現代、住む・ナリワイをする、だけでは空き家が増えてしまう。町家を残すためには、宿泊する、はマストだと感じていました。そこでまずは自分でやってみよう!と、いご縁がありこの建物をお借りしたのです。建物内には3部屋ありますが、古い町並みで近所の方の生活もあるので、別々の人に貸すより一棟貸しが向いていると判断しました。さらにただ綺麗な宿に泊まるだけというのも旅した感が少ないし、この宿ならではの何かと触れ合って帰ってほしい。それは何だろう?と考えたとき、思いついたのが自分の大好きなアートのことでした。アートに囲まれて眠ることができ、夜と朝で移ろいゆく景色が楽しく、ゆっくり作品と対話できる。私は美術館に泊まるのが夢だったので、このようなホテルにすることにしました。そして、私は「きそがわ日和」のファンで、美濃加茂市に通っていたので、ぜひおふたりに木ノ離のアートディレクションをお願いしたい!とダメ元でお願いしたところ、ありがたいことに受けてくださったんです!



藤沢百合さん



伊藤千帆 展示



小澤香織 展示



トークイベント



リトグラフ体験

作家はどのように選定しているのですか？

小川 | ホテルはアートを展示することが決まる前から設計が進んでいたため、土壁で釘が打てなかったり吹き抜けには足場が無かったり、展示が難しい部分がたくさんありました。まずこの場所で作品を展示できる力量がある作家というのが前提になります。あとは郡上の町や建物から地元の人が気づかないすき間を見つけて作品に転化させてくれる作家ですね。郡上は名古屋から距離もあり気候も厳しいのですが、それらをポジティブに楽しんでくれる作家であることも大事ですね。

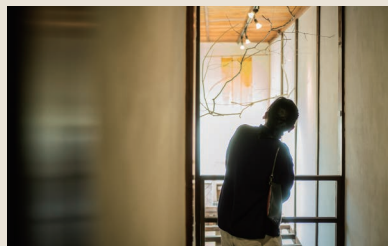
尾藤 | 木ノ離は宿泊施設なのでできるだけ休館日を少なくしたい。そうすると作品を搬入する日数も限られてしまいます。空間が大きいので展示するスペースが増えると制作費もかかります。小川は作家でもあるので、作家への負担をかけすぎたくないと言っていますが、百合さんが・・・

藤沢 | 私は「素敵だからもっとやってほしい!」と言ってしまう(笑)。

尾藤 | 無邪気に言うんですね(笑)。そう言われると作家さんもチャレンジして頑張ってくれるのかなと思います。

百合さんが建築士なので設営していて困ったことがあるとすぐ対応してくれるし、大工さんなど近所の職人さんも助けてくれるので作家が展示しやすい場づくりができています。

過去には伊藤沙織さん(2014年本学版画コース卒)や小澤香織さん(2004年本学美術学部卒)にも展示をしていただきました。



伊藤沙織 展示

郡上の地元の方々の反応はいかがですか？

尾藤 | 郡上市外から来てくれる方が大半ではあるのですが、近所から木ノ離に来てくれる人も増えてきてますね。絵を観たり芸術が好きの人が興味を持って来てくれている気がします。

藤沢 | 文化度が高い町なので、アートが好きという素地ができていますよね。それでもオープンする時に「地元で来てくれる人はいるのかな?」なんて不安もありましたが(※「木ノ離」は2020年6月のコロナ禍にオープンした)、まず雪かきや町内の行事などに積極的に参加するようにしました。そうしているうちに、応援してくれる人が徐々に増えて近所の方もイベントがあると顔を出してくれるようになりました。コロナ禍で広告などもあまり打てなかったのですが、知り合いの方からなどクチコミがじわじわと広がって、アートをやっているんだと知ってもらえるようになりました。

作家さんに郡上八幡を感じてもらい、地元の人との触れ合いを通して木ノ離に作品が作られ、それをまた地元の人を楽しんで見に来てくれる。そんな双方向の交流が生まれてきていると感じます。



伊藤沙織 展示

近隣にあるフレンチレストラン「RAVI」と「団子茶屋 郡上八幡」も藤沢さんの設計



RAVI



団子茶屋 郡上八幡



開催中の展覧会



吉田知古展「深度」

会期：2022年1月8日～6月19日
オープン日：土日祝のみ13時～17時(4月より18時迄)

※オープン日以外は事前予約制にて観覧できます。(メール、電話にて予約をお願いします)
※宿泊者専用フロア(2階)の展示作品は宿泊者優先となっておりますのでご購入いただけない場合があります。

今後の展望を教えてください

藤沢 | 木ノ離でのアート展示をきっかけに地元の有志が集まって「郡上八幡アートプロジェクト」を立ち上げました。周囲は美術館などが少ないので、点々とアートをスポットを作りたいと思っています。

小川さんと尾藤さんが主催されている美濃加茂市での「きそがわ日和」の活動を通して、空家に素敵なお店が入ったり移住される方がいたり、どんどん楽しい町になっていくのを見てきました。空家対策!とか町づくり!と声高に言うよりも、自分たちがやりたいことや面白いことをすれば自然と人が集まってくるのではないかと思います。設計事務所だけじゃない、宿だけじゃない、開かれた場所をつくることによってこの土地を知ってもらい、魅力が波及していつか楽しい場所になると嬉しいです。

ありがとうございました。



Art & Hotel 木ノ離

501-4222 岐阜県郡上市八幡町島谷888
Tel:0575-67-9670
https://kinori-denden.jp/

Information

Studio Riverbed Instagram : @studio_riverbed
Studio Riverbed web : www.s-riverbed.com

Report

『"新"博物誌』展

2021年11月26日[金]～12月8日[水] アート&デザインセンター-East

フランスの詩人 ジュール・ルナール(1864-1910)は、動植物ひとつひとつへの詩的な文章を書いた。それに画家のビエール・ボナル(1867-1947)が絵をつけた。『博物誌』(1896)である。現在は新潮文庫 岸田国土 訳版(1954)などが求めやすい。

文芸・ライティングコースの西村和泉准教授(戯曲 翻訳家)はそれを3年生に紹介し、『"新"博物誌』(2020～)をつくる授業を展開されている。

文芸の3年生らが、動植物を自ら決め、文章をそれぞれ一人一点は書く。それを読み、日本画、洋画、コミュニケーションアートの学生らが絵を描く。水彩やデジタルペイントなど技法は様々だ。「文先」で制作は進み、これらを合わせた書籍化までを行っていく。書籍化の編集チームの統括には 雑誌編集の授業を担当されている非常勤講師の米田環先生に依頼した。「表紙の色は白が良い。」など、造本のアイデアを参加学生たちでまとめていく。

2021年度は、『"新"博物誌』初の試みとして、東キャンパスのギャラリーにて、展覧会を行った。展示化は筆者の村田が担当。詩と絵を一枚の額におさめた18点を一列に並べた。本の中から、ギャラリー空間へ、簡単ようだがその表現は試される。表紙絵を展示したあと、書籍に収録された順番ではなく、短く鮮やかな「ヒトデ」(文、長谷川大悟 絵、田中祐羽美)などを前半に、難解で実験的なもの「餓者饑饉」(文、加藤なつ絵、手塚明日香)などを後半に、裏表紙の絵を配置した。

文章と絵が出会うように、書籍編集、額装、展示作業などを通して、文芸表現を志す学生と絵を志す学生が交流する場となった。互いに意見を交わすことも挑戦である。自分に無いものを求める意識が、表現への動力にもなるだろう。かつてのルナールとボナルはどうだろう。殴り合ったか、発注しただけか。詩と絵は、補足や説明になっはいけない、それぞれが独立しつつ、イメージが増幅されるのが理想だ。

本展覧会は巡回を予定している。「文先」で描かれた絵から、新しい文が生まれるのを期待する。

文芸・ライティングコース 准教授 村田 仁(詩人)



※2022年の巡回予定は 文芸・ライティングコースのホームページなどを参照ください。
https://nualwd.info



国際芸術祭「あいち」2022(ラーニング)・アートラボあいち コーディネーター
アートプログラムユニット「フジマツ」

第31話

近藤 令子

Reiko KONDO

『生きる術を学ぶ、アートを通した壮大な学びの体験』

これまで私は、アート作品やアーティストとの出会いによって、自分を取り巻く世界の新たな見方をたくさん発見してきました。ものすごく昔につくられたものも、昨日生み出されたものも、全部、どこかの時代で、世界のどこかで暮らしていた、私と同じ"人"がつくったものです。アーティストがつくり出した作品には、私たちが気がつかずにいること、考えもつかないようなことを示唆する様々な「視点」で溢れています。

その「視点」に出会ったときに、自分の中に新たな価値観を見出したり、日常の中にある風景に尊さを感じたり、自分はこんなことでたのしくなったり悲しくなったりおかしくなったり不安になったりするんだと発見したり、知り得なかった問題について考えさせられたり、世界は多様であることを思い知らされたりします。アートは私にとって、自分の中のいろいろな可能性を広げることに繋がっているといえるのではないかと思います。それは、生きる術を学ぶ、学び続ける機会を得ていることとも言えるかもしれません。このアートを通した壮大な学びの体験を、私だけが受取るのではなく、いろんな人にも知ってもらえたらと、アートに関わる様々な活動を続けているように思います。また、この活動が社会へと小さいながらも影響を与えることができたならば、社会にとってアートがなんのためにあるのかという問いにも答えられるのではないかと感じています。

現在、私は2022年7月30日から愛知県で開催される「国際芸術祭「あいち」2022」のラーニング部門のコーディネーターとして仕事をしています。今回のラーニング・プログラムにおける考え方やコンセプトは、私が感じているアートを通した学びの可能性を最大限に提示しているものだと思っています。

「アートは一部の愛好家のためのものではなく、すべての人がそれぞれのやり方で楽しみ享受するもの」という基本的な考え方に基ついています。からはまるコンセプト文を、みなさんにもぜひ読んでもらえたらうれしいです。「あいち2022」では、世界中から現代アートが集まり、たくさんのアーティストや作品に出会うことができる機会となります。ラーニング・プログラムに参加したり、芸術祭を観にいったりして、世界や自分を知る・深める体験をしてもらえたらと思います。



アートラボあいち外観(photo by 三浦知也)。
ここを拠点に「あいち2022」のラーニング・プログラムも開催されています。

https://aichitriennale.jp/learning/concept.html